
願いの願い

妖精

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

願いの願い

【NNコード】

N4742Z

【作者名】

妖精

【あらすじ】

たつた一回だけ使える願いの力その力の存在を知らない主人公そんな彼らが家族を守るためにがんばる

第1話 始まり

それはある田

ア然か
カ

ジーノマン

カシャン

勢いよく机にある時計を何か棒的なもので粉碎する

「たゞ騒かし」

「さあ、開けたくねえなあ……めんどくさいし……」
「ああ、頭をかいて起き上かる寝ぼけているせいか「ハラハラしながら机の引き出しのなかの鍵が何十にもしてある箱を出す
「うう、力チャ力チャ……力
「うう、力チャ力チャ……力

九

開した

“着信”

常に携

も充電

“

力
チ
ツ

宛
先

カチツ

四

四

五二

“
安

九三

「いつにかつたら」のうざつたいメールが止まるんだ！」

毎日毎日一分おきにくるこの迷惑メール、しかもメアド（メールアドレス）を変えて毎日にはまたくるし返信も出来ないの一体何なんなんだ！

おっとそういうえば自己紹介がまだだったな、まあこんな小説を読んでるのはよっぽどの物好きだなまあいい

俺の名前は寺内 尸偉い縁起の悪い名前だ周りからは自己中つて呼ばれてるし

しなじしがね
じいがむ

「ハア～～ツ」

ため息をついてたそのとき

タツタツタツタツ！

詰かが階段を上がってくる音がして

ノア

「一、一、一、」
「万葉」の「開」

一 色なり覗へき子共が裏一抱のひ一寸

この子供の名前は寺内
桜姫 寺内家の三女

「兄ちゃん、速くしないと遅れるぞ！」

そういう力が強くなる

「ハイハイつわかつたよ」

「うう、そう言って桜姫の頭をなでながら時計を見る、時間は7時を回った所

そう言って階段を下りてリビングに行つた、そこには朝食の準備が出来ていて台所には誰かがいた

「あ、兄さん遠くしないと遅刻しますよ！」
しないゆき

「アーヴィングの名前」と書いた
書簡は、彼の娘の邸女であつた

そう言つて椅子に座る

「いえ、別に構いませんよ……………でも最近変ですよ？いつもは私達より早く起きてるのにどうしたんですか？」

「ハハツ大丈夫だよ」

そう言って誤魔化す正直どんなどで誤魔化せるかは分からぬか
ら適当に言つとく

そんなかんじで話していると
ダツダツダンツダンバン

と五円蠅の音が聽こえてくる

えええええええ
「だああああああああああああああああああああ、やつべえええええ

「ふがふがふがふんがはがんが（何で早く起こしてくれねーんだよー）」

「別にそれほど急ぐ時間じゃないでしょ」

「まだ7時11分そんなに焦る時間ではない
「んぐつふう、今日は朝練するから早く出たかったのー。ああやつべ、
んじゃあ行つてきますー！」

「おひちよ朝」はんば?

「い、いらないよ行つてきます」

やハツリで出でした

お待たせいたしません。

ちなみにせつ もの奴は寺内

真幸寺内家の次男だ しないまさき

第2話 覚醒（前書き）

キャラクタープロフィール1

名前：寺内 尻

（しない しかばね）

性別：男

誕生日：3月1日

歳：18歳

血液型：A B型

身長：181?

体重：62?

普段は優しいが犯罪や暴力に家族が絡んでいると真っ先に助けてくれる悪ふざけが嫌いで陰で努力しているやや頭がキレる

第2話 覚醒

スタスタと歩道を歩く屍と桜姫と雪、桜姫はまだ小学三年生で俺は高校三年で雪は一年、ちなみに真幸は中学三年で剣道部主将だ、そんなこんなで桜姫を小学校にやつてから俺たちは高校に行く親は共働きでフラツと帰つてきてはまたどこかへいく、そんなことがたりまえになつていたまあクリスマスと正月は必ず帰つて来るから別にいいがそんなことを考えていると校門が見えてきた俺たちが通う学校は千鈴ヶ丘高校まあ至つて普通そうに見えるがそうではない、何故ならこの学校一年毎に校舎が変わるつまり園内に学校が三つあり一年、二年、三年と別れている全国各地から大勢やつて来るもんだから教員も大変だろうなそんなことを思いながら校門をくぐる「それでは兄さん、帰りに気をつけて下さいねくれぐれも怪我がないように！」

と人差し指を立てながらいう

「大丈夫だよ、子供じゃないんだから」

そう言つていこうとすると

「あつそれと私帰り部活で遅くなります！」

それだけ言つと自分の校舎がある所に向かつて走つていった

「全く、心配性だな」まあいいや」

そう思うと校舎の中に入り教室に入つた、そして学校が終わるそのまま家に帰るうとすると目の前に仮面をして黒いマントを羽織つた人がいた

「君は……寺内 屍だね？」

突然そう聞いてきたので俺は

「はい、そうですけど？」

と、普通に対応したすると突然

「ならばここで死んでもらう、貴様の血は何色だ？」

そう言いながらどこから出したか分からぬ大きな鎌を取り出した

.....!.....!.....!.....?.....!

訳がわからなかつたいたきなり現れて死ねつて言われてすぐに逃げ出したかつたでもそんなことを考える暇もなく俺は切られたん?

(?)

Φ.
ε
?
τ

と云ふてももののが5分間ホーーとしてたたけすると

「ねえねえ、屍君は文化祭の出し物何がいい?」「

見渡す

「…………教室…………だよな？」

「ナニウチー、今更何をいっても、おまけに何うが

前の奴が言つてきた

お前が誰だ?」「

本当に知らなかつた回りの奴らも誰もこいつについては何も言わなかつたソイツがそこにいるのが当たり前見たいにこつちを見始めた

「……………」

「私の事を忘れるたなんて酷くない!?」

「…………あ…………う…………」何も言い返せない何しろ分からぬの
だから相手が何者で何の関わりを持つているのかが分からぬのだ、
そんな感じで困つてると先生が来た、しかも俺の知らない先生だ
赴任してきたのか?、でもそんなことがあるなら集会をやるだろう
何故か頭が困惑してきた、頭が痛い吐き氣もする…………

「何なんだこれは？」

そう呟く俺の知らないとこで何かが変わりはじめていた
だこれは始まりに過ぎなかつた

第2話 覚醒（後書き）

キャラクタープロフィール2

名前：寺内 雪

（しない ゆき）

性別：女

誕生日：5月29日

歳：17歳

血液型：A型

身長：162？

体重：47？

B：91 W：52 H：83

心配性の長女真面目でじつかりしている家庭的で炊事や洗濯をしてくれるキレると想い

第3話 真実（前書き）

キャラクタープロフィール3

名前：寺内 真幸

（しない まさき）

性別：男

誕生日：9月5日

歳：15歳

血液型：O型

身長：165？

体重：59？

慌てん坊でがんばり屋陰で努力することが多く頭からは暑苦しいと言われている寺内家次男

第3話 真実

キーンゴーンカーンゴーン

「ハア、何だつたんだ？」

そう言いながらスタスターと歩いて帰る…………すると、

「ん？」

目の前に仮面を付けて黒いマントをかぶつた人がいた
(あれ?、何だこれ…………前にも一回あつたような?……)

そう思つていると

「お前は…………寺内 尻か?」

そう聞かれながら黒い煙みたいな物が出てきた

(ヤバイ、何か知らんけどここは逃げなくちゃヤバ、)
ズバンッ

そう思つ間もなく相手は黒い煙を鎌状にして首を切つた

「貴様の血は…………何色だ?」

薄暗い中

「…………き…………て…………」

(ん?)

「お…………や…………てよ」

(誰だ?)

「起きなさい!?」

バシイイイン

という音と同時に田が覚める頬には赤い紅葉の手後が出来た
「何も叩いて起こさなくてもいいのに…………」

文句を言うと

「中々起きないあんたが悪い！」

怒り口調で怒鳴られた言い返す暇もなくSH^{ショートホーム}が終わる、同時に「今日は私の買い物に付き合ってくれる約束でしょー、速く行くわよー。」

そう言って教室を出ていった

「ハア～～、つたくめんどうさにな～～～～、ん？」

（そういえばあいつの名前何だっけ？ヤベシ忘れてたらまた怒るだろうな……ん、また？）

そんなことを考えながら教室を出たその瞬間

ピタッ

足が止まり、立ち止まる

「何だこれ？」

小言でいうと後ろから誰かが

「よう！」

笑いながら話しかけて来た……相手は俺の事を知っているから話しかけたのだろうか？俺は

「お、おつー！」

つと適当に言つたそうすると向こうは

「何だそれ～、大丈夫か？あいつさうそつ俺は今日転校してきた白海^{しらかい}甲火だよろしくな！」

「ええええええええ！」

知り合いじゃなかつたのかよ！そう言いたい位だつた……

「それで、何？」

多少の驚きはあつたものの冷静を装つた

「いやあ～最近切り裂き魔が出てきたって聞いたからつて知つてゐるが、わりいな、んじやな」

そう言って立ち去つたその時

グニヤ～～

「う、オエエ」

膝を付いて吐きそうになる眩めまいもしてきた
(うう、何だ?)

すこいくらいの吐き気がしてきた眩めまいもする立とうとすれば上手く
立てないその場で壁に寄り掛かる、気が遠くなる…………ドサ
ア、俺はそこで気を失った

「…………だ…………い…………じょうぶ…………?」

声が聞こえた誰だろう?優しい声だ

「起きなさい!?」

バシィィィン!

その音と同時に目が覚めた

ガバア

「?…………?…………生き…………てる?」

「何いつてんの?大丈夫?」

訳が分からず辺りをキョロキョロと見回す

「あれは…………夢?」

首を擦りながら咳く、何が何だかわからなかつたとにかく学校の裏
門から出て帰ろうと荷物を持って出ようとした

「な……に帰ろうとしてんのよ、買い物は!?」

部屋を出ようとした時目の前に人がいた

「うわっ、びっくりした!」

後ろにピヨンと下がつてしまつた

「まあいいわ、それよりあんた突然倒れたのよ!大丈夫なの?そう
言つ訳だから買い物は明日にして一緒に帰ろう」

「あ、あれ?」

バツ振り向くと誰もいない

「?」

幻でも見たような情けない顔になるふと聞いてみた

「今日つて……何日?」

「ハア～?、12月20日だよ
日は変わつていない後はタイミングだ
「とはいえ結局死ぬんだよな～」

「…………！」

振り返つて帰ろうとした時

ドン、ドサア、ガツ

さつきの人が俺を倒して上に乗りナイフを突き付けた

「何故お前は未来を知つてゐる」

「お前が俺を殺してゐるのか?」

聞いた、以外と冷静に聞けた

「ふん」

その人はその場から立つたそして話した

「我々はお前やお前の家族を捕らえ安全な所に送る事が任務だしか
しあ前の家族はそれを聞かず拒否した、だから強制的に連れてく事
にしたのだが……」

口を曇らせた言いたくないのだろうかしかし

「そんなことは初耳だが」

そんなこと言つたそしたら

「当たり前だ！」

と言い返された

「当たり前…………ちょっとまでなんで当たり前なんだ?」

相手はため息まじりに

「…………お前は…………意味のない能力だからだ」

「能力…………?」

「そう、能力だ……お前やお前の家族は特殊な血筋で最近分かったことでその血液が一滴でも混ざると中学一年まで願いを叶える事ができ、中学一、三年に発生する……我々はその能力のことを、"願いの悪魔（ニア）"と読んでいる何故ならその願いはどんなことでも叶い（かない）代償が無いからだ」

聞かされた、初めて知った

「その事は……」

「お前の家族……長女と次男だけが知っている」

真実を知つたその時

ブオン

「おい、完了だ」

背後から誰かがよつてきた振り向くと誰もいない

「全く腹減つてしまはないわ」

「ハア、ニアを使い過ぎるなよ疲れるだけだ」

「分かつてるよ、おつこいつか今回のターゲットは、ほれハンバーガー食べるか？」

そう言ってハンバーガーを差し出してくるそれを受け取ると俺は「あなたの、…………能力は…………なんだ？」

恐る恐る聞いた

「ああ、まつ一言で言えば光速で動く能力だ、ただ…………ちょっと難点があつて使う度に腹が減るんだな、これが」説明をしながら黙々とハンバーガーをレジの袋から取り出してバクバクと食べているその時

ガシャヤヤン！

窓ガラスが割れたそこには

「黒いマントに仮面！」

夢の俺を殺していた奴だ！

フォオオン、フォオオン

窓から風が入る

「寺内 尻はどうだ？」

そう言って黒い鎌をだした！

第3話 真実（後書き）

キャラクタープロフィール4

名前：寺内 桜姫

（しない おうひ）

性別：女

誕生日：12月1日

歳：10歳

血液型：B型

身長：132？

体重：38？

ちっちゃいくせして以外と強い人見知りがなくどんな人にも笑顔を振り撒く寺内家三女

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4742z/>

願いの願い

2011年12月21日22時48分発行